



ICT活用力の向上を目標に

秋田大学など国立大学法人は国から交付される運営費交付金を頼りに運営をしていますが、近年は各種評価指標をもとに大学間で交付金の配分率に差がつけられています。その評価に大きく関わるものとして中期目標・中期計画の達成状況があります。これは6カ年計画で各大学が社会的要請等に対応するための自校の達成目標を定めてその達成状況が評価されるというもので、本学を含めて国立大学法人は令和4年度から令和9年度までの6年間で第4期中期目標・中期計画期間となっており、今年度がその第1年目となっています。

この第4期中の中期目標達成のために、本学でも様々な中期計画を掲げていますが、その一つとして全学的にDX(デジタルトランスフォーメーション)推進に関する取り組みを強化して、ICT教育に力を注いでいく方針となっています。すでに報道等でご存知の方もおられると思いますが、秋

教育企画会議長 宇野 力

田大学では令和6年度4月にデータサイエンス系の新学部を設置することも検討しています。これらは、現代社会の課題であるICT関連の人材不足に対応するためのものです。

中期スケジュールの一例として、個人所有PC等の活用で授業利用可能なAI・データサイエンス等の教育用ソフトウェアを包括ライセンスで取り入れるとともに、年に複数回、それらソフトウェアの利用講習会を開催し、学生の皆さんが学べる環境を整えていきます。学生の皆さんは、教員や企業人など、今後どのような道に進むにせよ、ICTを駆使して活躍することが求められる時代となっていますので、上記講習会等に積極的に参加するなどして自身のICT関係のスキルアップを目指していただきたいと思います。教育文化学部・教育学研究科においても、ICT教材を授業に取り入れることを進めて参ります。



秋田駅から見える太平山（1月2日）

【教育文化学部学校教育課程各コースの紹介】

教育実践コース

教育実践コース3年次 仁村真由香

秋田大学教育文化学部教育実践コースは、教育文化学部で教員になるために学ぶ学生のうち、主に小学校の先生の免許を取得することを目標としている人が多いコースです。入学のための試験の種類は様々ですが、教科は入学してから選択して専門的に学ぶことができます。教科は、国語、数学、英語、理科、社会、音楽、保健体育、美術など多様な中から選択することができるのも、このコースの魅力の一つです。今回は、私も所属している教育実践コース音楽教育研究室の紹介をしたいと思います。

音楽教育研究室は、学部生では1年生7名、2年生5名、3年生6名、4年生5名の計23名で活動しています。音楽に関する専門的な講義はもちろん、音楽教育に関わる演習や学習指導案の作成、模擬授業の実践など、さまざまな内容の講義で日々学びを深めています。

研究室の行事としては、年度末に自身の専攻楽器の研究成果を披露する「自由研究演奏会」や美郷町に訪問して演奏をする「美郷町コンサート」を始めとするたくさんの演奏会があるのも特徴です。

右の写真は、美郷町コンサートでの合唱の様子です。演奏会までの講義等の空き時間を活用して練習を重ね、1～3年生全員で森山直太郎・御徒町凧作詞作曲の《虹》という曲を演奏しました。また、それぞれの学生の専攻楽器での独奏やアンサンブルなど多様な演奏形態で演奏し、地域の方々に音楽の魅力を伝えたり、自身の技術を高めたりすることができるということも、この研究室ならではの魅力ではないかと考えています。

紹介してきたように、教育実践コースは、教職に就くことを目標とする学生が、教科を吟味して選択し、専門的な知識を学び、実践的な理解へとつなげることができる場です。主に紹介した音楽教育研究室のほかにも、各教科の特色を生かした行事に参加することで、多くの学びを得ることができる研究室がたくさんあります。秋田大学に興味がある学生さんは、ぜひ教育実践コースへの進学を検討してみてください。



英語教育コース

英語教育コース 3 年次 近藤聖眞・五十嵐結南

英語教育コースでは、小学校や中学校、高等学校の英語の教員免許の取得を目指す学生が多く在籍し、主に英語教育について学習します。英語教育コースの授業は英語でのやりとりが行われることが多いため、英語教育の知識だけではなく、自身の英語力も向上させることができます。

英語教育コースには現在 6 名の先生が所属しています。6 名の先生方から、英語教育についての学習はもちろん、英語という言葉について学んだり、英米文学や日本の文化と外国の文化の違いなどについて学んだりしています。また、ほかの大学の教授によるオンライン授業をとることもでき、より広く深く学ぶことができます。

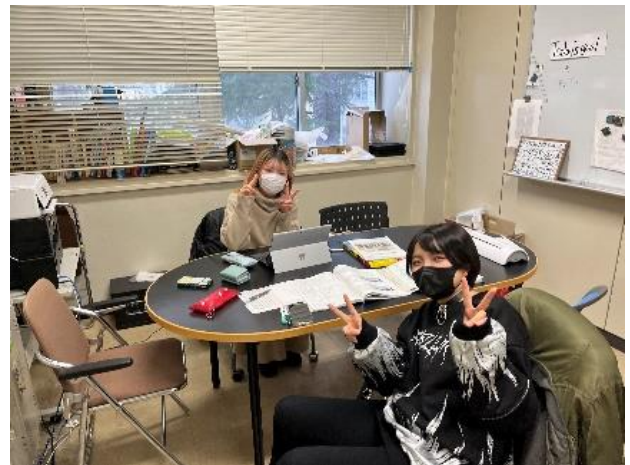
このように、模擬授業等を行い、将来の自分の指導力を実際に高めるための授業だけでなく、英語教師になるうえで役立つたくさんの分野の授業を受けることができます。そして、特に自分が興味を持った分野について、卒業研究のテーマとして、さらに深く研究していきます。

1 学年 10 人前後と少人数のコースですが、みんな切磋琢磨しながら楽しく大学生活を送っています。また、1 学年の人数が少数ということもあり、先輩後輩との関わりもとても大切にしています。英研祭という英語教育コースのイベントではスポーツ大会などを行い、普段関わりのない先輩や後輩と交流して進行を深めることができます。研究室では、英語教育コースの学生が集まり、一緒に勉強をしたり、雑談をしたり、交流を深めています。授業や教員採用試験について、わからないことを先輩に質問したり、同学年の仲間同士で協力して課題に取り組んだりしています。たくさんの学生が利用していて、毎日の大学生活を楽しく過ごしています。

外国語や外国の文化を学ぶことは日本語や日本の文化について理解することにもつながります。個性豊かな仲間たちや、私たちをあたたく見守り、導いて下さる先生方と楽しく英語を学ぶことができるコースです。英語教師を目指す方、英語を深く学びたい方は、ぜひ英語教育コースへお越しください。



英研祭の様子



英研室の様子

理数教育コース

理数教育コース 3年次 山崎天誠

理数教育コースは、数学や理科を中心として日々、様々なことを学んでいます。小学校・中学校、高等学校の教員を目指して1年生から、数学専攻と理科専攻に分かれ、専門的な知識を深めています。自分たちが、小学生・中学生・高校生の時などどのようなことを考えていたか、GIGA スクール構想やICT活用などから、今と過去を比べてどのような指導が適切なのか、授業で学びます。私が専攻する数学では、解析学、幾何学、代数学、統計学などを通して、問題の背景や目的を意識することで、小・中・高・大における算数・数学の繋がりを理解していきます。そして、解析学、代数学、統計学、幾何学などは新しく学ぶことも多く、悩むこともありました。

一人でじっくり考える大切さを学ぶことができます。さらに、周りの友達と一緒に考えて楽しく課題に取り組みます。

3年次後期になると、ゼミが始まります。各研究室で活動は異なりますが、自分の研究室では週1回の研究発表を行います。研究発表では、他の学生や教授から意見を貰えますし、他の学生の発表もあります。そのため、自分だけでは気付けない発見が多く、自分の研究をどんどん深めることができ、実りのある活動になります。他にも、秋田県内の小学校、中学校、高等学校に授業参観を行います。その際、現職の教員と交流を取ることができますし、時にはお手伝いもします。このような活動や毎週の研究発表、今までの教育実習などを通して、自分はどのような授業を展開したいか、どのような観点で授業をみるかなどの考えを持つことができると思います。

コロナ禍で行うことができなかった大学祭が今年(2022年)はできました。自分にとっては大学生活で初めての大学祭でとても楽しかったです。サークル活動も昨年より他のサークルと交流を行えたため、徐々に広がっています。大学生活は授業だけでなく、サークルやイベント、バイトなど大学生活は幅広いです。

私たち理数教育コースは、短い4年間という時間で、酸いも甘いも

色々な経験を通して、自身の目標に向かって切磋琢磨、協力しながら成長していけるのがこのコースの魅力です。

大学祭



理数教育コース 3年次 加藤紀羽

理数教育コースは主に、小学校、中学校、高等学校における理科または数学の教諭になる上で必要な専門的な知識や技能を学ぶことができます。教員として将来社会に貢献できるように、指導案作成や模擬授業などの実践的な学習を通して、仲間と切磋琢磨し周りの教授の方々の力を借りながら、一步一步確実に成長できる環境です。



理科の先生を志望した場合の学習や生活について紹介したいと思います。教諭になるためには、大きく分けて「教職における教養と一般的な教養」と「科学及び理科教育の専門知識」の2つの分野について学ぶ必要があります。1年次では主に、基本的な教養と理科・科学の基礎的な部分について確認及び学習を行います。1年次から理科教育の本質的な考え方を学ぶことができます。2年次は、1年次で学習したことをもとに、より実践に近い教養を身につけ、理科教育を行う上で必要になる基礎的な観察・実験の知識や技能やについて学ぶことができます。2年次の秋頃には教育実習があるため、成長を感じたり、自己分析を行ったりすることができます。3年次からは研究室に配属され、興味のある分野について、高い専門性をもった教授や先生のもとで研究をすることができます。3年次は比較的時間があまるため、アルバイトやサークル、旅行などの児童・生徒とのコミュニケーションの切り口にもなり得る経験をすることもできます。

私が入学した年は新型コロナウイルス感染症が流行し始めた時期であったため、従来のような式や交流会が開いてもらえない状態でした。友人や先輩方、教授の方々と直接顔を合わせて話すことができず、実験や模擬授業も満足にはできませんでした。しかし、教授の方々は親身になって、学生が成長するためのアドバイスや質の高い学習の機会をつくってくださいました。学生のことを大切に思っている教授や、一緒に高めあうことができる仲間と共に、理科・数学教育について学び、充実した大学生活を送ることができるのが、たくさんある理数教育コースの魅力のうちの1つだと思います。

研究発表



特別支援教育コース

特別支援教育コース 3年次 田口陽介

特別支援教育コースでは、障害のある子どもの、一人一人のニーズに合わせた教育を学んでいき、特別支援教諭を目指して、教員免許取得を取得します。しかし、特別支援教育コースは、他の学科よりも実習が多く、免許取得の自由度が高いため、主面、副面の小学校教諭、中学校教諭の教員免許だけでなく幼稚園教諭、高等学校教諭、保育士、学校図書館司書教諭、自分の取得したい免許に合わせて勉強することが出来ます。

特別支援教育は、小学校、中学校といった通常学級とは大きく異なり、求められる知識や対応の仕方、考え方も通常学級とは変わってきます。三年時では、主面二期と特別支援の二つの教育実習を連続で行うため、その違いを強く実感できます。

今回は、学習活動として特別支援教育コースの教育実習と、行事について私の経験を踏まえて紹介させていただきます。まずは教育実習についてです。特別支援教育の実習では、それまでの他の実習とは違い、授業形式や、生活単元学習や作業学習といった特別支援ならではの授業、一日の日課、生徒対応の仕方などすべてが大きく変わってきます。今までの実習で得た技術が生かせないことも多く、難しいと感じることも多いですが、得られる学びは多く、3週間という短い期間の中で、「一人一人のニーズに合わせた教育とは何か」を体験、実感し、真の意味で理解することができるようになります。

行事に関しても充実しており、コロナウイルスの影響で行えていない行事もいくつかありますが、特別支援教育コースならではの魅力ある行事によって学科内での学年を超えた交流も活発に行えています。12月には演芸祭を行い、より学科内での絆を深めることができました。

今回紹介した活動以外にも特別支援教育コースならではの活動、魅力は数多くあります。この特別支援教育コースでの学びは価値観を広げ、自分を大きく成長させてくれます。拙い文章ですが、このコースの魅力が少しでも皆様に伝わっていると嬉しいです。



演芸祭での交流



研究室の様子

こども発達コース

こども発達コース 3年次

小林亜莉亜・奥寺ひより

これから、教育文化学部・学校教育課程・こども発達コースの紹介をします。

はじめに、こども発達コースで取得できる免許や資格について説明します。こども発達コースでは、入学後に①主に幼稚園教諭や保育士を目指すコース（幼稚園・保育園主免）、②主に小学校教諭を目指すコース（小学校主免）のどちらかを選択します。どちらのコースを選択したとしても、幼少接続の観点から教育について考えられることがこのコースの魅力であると思います。中心となる免許はこの3つ（幼稚園・保育園・小学校）ですが、ほかにも中学校、高等学校、特別支援学校の教員免許や、学校図書館司書、社会教育主事などの資格も取ることができます。このように、幅広い免許や資格を取ることができるのが、こども発達コースの特徴です。

次に、私たちが思うこども発達コースの魅力を紹介します。1つ目は、実習の機会が多くあるということです。大学4年間の中で、幼稚園、保育園、小学校のほかにも、児童館や乳児院、社会福祉施設、特別支援学校でも実習をさせていただいたり、宿泊学習の手伝いをしたりと、子どもたちと直接かかわりながら学べる機会が多くあります。座学だけでは得ることの難しい実践的な力を身につけることができると思います。

2つ目は、幼小接続の観点から教育について考えられるということです。幼児教育・保育と小学校教育の両方について学ぶことで、子どもが育っていく姿、育ってきた姿を見通したかかわりかたについて考えることができます。

3つ目は、実践的な授業が多いということです。小学校の領域の授業では、1年生のうちから模擬授業を行ったり、実際の授業を進めるうえで必要な指導案を作成したりと、実践的に学ぶことができます。幼保の授業では、赤ちゃん人形と乳児保育に必要な道具や設備が整った部屋で、ミルク作り、おむつ替え、沐浴、おんぶ紐の取り付け方などを実践します。私たちは、赤ちゃん人形にそれぞれ名前を付けて、親しみをもって取り組みました。

4つ目は、資格選択の自由度が高い、少人数のため学生同士や教員との距離が近く、きめ細かな

指導を受けることができ、教科にかかわらず子どもの発達や教育について学ぶことができるということです。また、将来に迷いがある場合でも、本コースの特徴を生かして学びを進めることで、新たな視野が広がり、充実した大学生活を送ることができると思います。

ここまで、こども発達コースについて紹介してきましたが、少しでも魅力を伝えることができたらうれしいです。皆さんと一緒に、楽しく子どもについて学ぶことができることを願っています。以上でこども発達コースの紹介を終わります。



学生室の様子



学生室のある5号館5階から見える風景

【教育文化学部地域文化学科各コースの紹介】

地域社会コース

地域社会コース3年次 福士 藍

私は現在、教育文化学部地域文化学科に3つのコースがある中で、地域社会コースに所属しています。こちらの地域社会コースでは、地域に根差した学びをすることができ、地域について考え、行動する力が身につくと感じています。日々の講義による学習はもちろんのこと、フィールドワーク等による実践的な学習もでき、地域に関わる学びをする上での強みがあると感じられます。そういった魅力のある地域社会コースについて、ご紹介させていただきます。

はじめに、講義についてです。地域社会コースの中でもまた3つの学習分野に分かれていて、自身の興味のある分野について学ぶことができます。分野は、法律や政治に関するガバナンス、マーケティングや経営に関するビジネス&マネジメント、人文地理や社会学に関するコミュニティとなっております。私は、主に経営学と社会学について学んでいます。一つの分野について究めることも可能ですが、様々な分野に触れ、様々な角度から多くの学びを得ることもでき、より深い学習となっています。

次に、フィールドワークについてです。こちらは、地域社会コースの最大の特長と言えるのではないのでしょうか。講義で学んだ知識を、今度は体験を通して生かすことができます。私は3年次の地域連携ゼミという授業で、由利本荘市矢島地区の地域活性化についての取り組みを行いました。取り組みとしては、フォトコンテストを開催し、地元の方や、市内外の方に地域の魅力を再認識してもらいたい、というものでした。こちらのゼミは、提携してくださる秋田県の企業や自治体などのご協力のもと行うものです。そのため、学生の力のみではできない、具体的でより実践的なものになります。学生のうちから、企画や運営管理ができる取り組みというのは、そう多くはないと感じるため、貴重な機会となりました。また、1年次でも地域学基礎という授業があり、フィールドワークを行うことができます。1年次では簡単なアンケートや分析、提言などを行いましたが、年次が進むにつれ、上記のように応用したものになっていきます。学びや収穫は、4年間の学生生活を通し役に立ち、繋がっているのだと感じます。

学生生活に関してですが、私は、教育文化学部の学生委員会に所属しています。2022年度のオープンキャンパスでは、学生スタッフとして参加

しました。自身も高校生のころから秋田大学で地域について学びたい、と考えていたため、現在、満足いく学びができていることを嬉しく思います。地域社会コースには、地域に関わりたい・貢献したい、という考えをもっている学生が多くいます。自身も、その思いを形にするために励んでいます。地域について、または秋田県について関わりたいという思いを実現するきっかけになる機会が多くあり、充実した環境であると言えるのではないのでしょうか。興味をもっていただけたら頂けたら幸いです。地域連携ゼミ：由利高原鉄道



地域社会コース3年次 藤田あかね

地域社会コースは地域の問題を客観的に見通す力を養うこと、総合的な実践力を育てることを目標としたコースです。そのため、多くの分野の学問を実践的に学ぶことができます。何をやりたいかあまり決まっていなくても地域について学びたい気持ちがある、という場合に、地域社会コースの授業を通し興味のある分野を見つけることができます。また現地のリアルタイムでの状況を取り入れた学びを行うことができるため、地域活性化に貢献したい、将来そういった道に進みたいと考えている人にとっても、このコースで得られることは多くあります。

他にも、講義を通して就職や公務員試験に必要な学問の基礎を学べると言う利点があります。地域社会コースに属する学問の範囲として、経済学、社会学、民法などが含まれます。このコースを選択する人は、将来公務員の道に進みたいと考えている人も多いと思われませんが、これらは公務員試験の科目となっています。勿論それ以上に自分で学ぶ必要はありますが、基礎的な考え方などの部分を養うことは必ずその手助けとなります。試験を受けない場合でも、こういった社会に関わる学問を履修することは必ず将来役に立つ場面が出てくるでしょう。

またこのコースの特徴として、3年次に卒業研究を行うためのプレゼミに所属すること、そのプレゼミの種類が多いことがあります。自分が興味

のある分野の専門的な研究を、講義ではカバーしきれない深い部分まで行うことができます。

現在私は社会学のゼミに所属しています。社会学とは名前そのまま「社会」に関する分野について学ぶ学問です。「社会」に関する分野と聞いて、どのようなものを想像するでしょうか。政治について、社会問題について、好きなアイドルや漫画について…社会学が関係する分野はとても多岐に渡っています。私は現在、心の性に関する問題を扱っています。先生のサポートや同じゼミに所属している方々の言葉により、1人で考えた

り、ニュースを見たりするだけでは気づかなかったようなことまで多くの学びを得ることができました。

今やりたいことがある方も、これから見つけたいと思っている方も、ぜひそのための道として地域社会コースの選択を検討していただければと思います。



キャンパスの冬の風景



心理実践コース

心理実践コース 3年次 有原香乃

「心理学」と聞くと、読んでいる皆さんはどんなことを想像するでしょうか。学校や病院に所属するカウンセラーという仕事を思い出したり、はたまた人をだます技術のような胡散臭さを感じたり人もいるのでしょうか。

実は、心理学という学問は非常に奥が深く、いろいろな領域と繋がっているのです。先述したカウンセラーに大きく関わる臨床心理学、教育現場で用いられる教育心理学、福祉的問題やサービスを考える福祉心理学、犯罪経験者や被害者の心理的プロセスとサポートを探求する司法犯罪心理学、仕事のキャリアやストレスについて考える産業組織心理学など、他にもさまざまな領域・側面から人々について考える学問であり、そして心理学は私たちの生活を陰ながら支えています。

秋田大学心理実践コースでは、このようなさまざまな心理学を学び、それぞれ関心の高い領域で活躍できる学生の養成を目的としています。特に心理職の要ともなる公認心理師・臨床心理士の資格に対応していて、定められている講義や実習を履修することで、それぞれの資格を受験することが可能です。



また、秋田大学の心理実践コースでは、豊富な実習経験を培うことができる点も特色です。県内の小学校に赴いて心理検査を実施する心理実習は、1年次から3年次までのほとんどの学生が共に活動する最も大きな規模の実習です。各年次で協力し合うことでコース全体の絆も深まりますし、性格検査や知能検査、学力検査など基本的な心理検査を身に付けられる有益な機会でもあります。検査の準備から実施、分析までを自分たちで行うの

でとても大変ではありますが、心理職に必要な知識と技術です。他にも実際の福祉施設での心理職について学ぶ福祉実習、病院での医療実習などがあります。

ちなみに相談室も併設されており、大学院生になると相談室で実際にクライアントと関わることも可能です。これらの実習で心理検査や心理職について学ぶことはもちろん、いろいろな境遇にある子どもたちとの接し方や、実際に働いている心理職以外の方々との関わり合いができ、心理実践コースとしての学び以上の社会経験を積むことができます。

心理実践コースの先生方も、教育、福祉、司法、医療、産業などの現場で実際に働いてきた有資格者の方がほとんどです。各領域に強い先生がそれぞれいらっしゃるので、研究できる領域が幅広く、各領域の現状や課題についてのより近いご意見をいただくことができます。

実際に心理実践コースに所属してみて、課題や研究は決して易しいものではないですが、自分が研究したいテーマを支えてくださる先生方や友人がいて、毎日とても有意義です。これを読んで、これから心理実践コースを目指す学生の皆様が、大学生として心理学を探求することの楽しさを少しでも感じてくだされば幸いです。



国際文化コース

国際文化コース 3年次 熊本柚月

国際文化コースでは、さまざまな国と地域の文化や文学について学ぶことができます。私は今まで表象分野を中心に、映画や文学などの講義を履修していました。特に力を入れていたのは韓国語です。大学に入学してから初めて韓国語を勉強し始めたのですが、授業を通して段々と上達していくことが嬉しく、力を入れて学習するようになりました。大学の韓国語会話の授業では、韓国人の先生が教えてくださることも楽しく学習できた理由の一つです。検定を受検したり、オンラインでの短期研修に参加したりする中で、留学をしてみたいと思うようになりました。交換留学をするか、休学して語学留学するか、迷っていた時に、先生から交換留学生を募集しているとのメールがありました。私はすでに3年次であったことと、1学期の交換留学であれば休学することなく、4年生までに帰ってくるができるということで、急ではありましたが留学を決意しました。



私は韓国の国立ハンバット大学に1学期間(8月末~12月中旬まで)留学しました。留学先では全部で5科目履修しました。普段は授業の予習として単語を調べることや、時々wordやパワーポイントを使った課題がありました。

語学の授業は中間試験と最終試験があるため、夜遅くまでカフェや学校で勉強しました。ハンバット大学には日本語学科があるため、日本語会話の授業に参加したり、行事の際の日本語のアドバイスをしたり、さまざまな経験をさせてもらいました。交換留学生にはキルギスタンやベトナム、モンゴル、イギリスなどの学生がおり、語学の授業は主に留学生が受講するため、仲良く学習することができました。

私は留学するまで、卒業研究で何について取り扱うのか悩んでいましたが、韓国で出会った日本人の先生との会話から、韓国と日本のコロナ禍における大学生について取り扱おうと決めることができました。将来は韓国語を用いた仕事をしたいと考えており、留学先で韓国語を教えてくださいました。



先生からも応援していただいたため、卒業研究と共に語学の学習にも励んでいきたいと思っています。

国際文化コース 3年次 大島未来

私が所属する国際文化コースでは、外国語学習をはじめとする、様々な外国の多様な文化や芸術、文学、歴史などを学ぶことができます。私は、大学入学以前は韓国語を学んでおり、朝鮮の歴史や文化に対する興味が非常に強かったです。しかし、大学では新たな言語に挑戦してみようという思いから、1年生から3年間中国語を履修しました。これまでに中国語検定4級に合格し、今後はさらに上の級にチャレンジすべく学習に励んでいます。

国際文化コースの魅力は、授業選択の自由度が高いため、様々な国や地域、学問分野に関する授業を幅広く選択ができることです。私は、様々な授業を受講しているうちに、やはり中国語を履修していることもあり中国や台湾の歴史や文化、文学について強く関心を抱くようになりました。現在ではこれに関するゼミに所属し、とくに台湾の日本統治時代をテーマに卒業研究を執筆する予定です。



国際文化コースでは、学生同士で討論したり、意見を共有したりする授業が多くあります。こうした授業では、先生からの指導だけでなく、学生同士で討論することで気が付くことができる点や新たな観点などが発見できるため非常に面白いと感じています。また、学年の隔たりなく意見交換できる機会がある点も魅力の一つです。

国際文化コースでは、地域社会コースと同じように授業を通じた地域企業での実習も経験できます。私は地域連携ゼミという授業で、秋田の民間企業で実習を行い、インターンシップの改善について取り組みました。

国際文化コースでの学びは、将来就く職業に直接役立てられることだけではないかもしれませんが、国際的視野や異文化の理解などといった、グローバルな幅広い視点で地域を考える際に大きく力を発揮できるものだと考えています。自分の関心のあることや挑戦したいことに自由に取り組むことができるコースだと感じています。

国際文化コースでの学びは、将来就く職業に直接役立てられることだけではないかもしれませんが、国際的視野や異文化の理解などといった、グローバルな幅広い視点で地域を考える際に大きく力を発揮できるものだと考えています。自分の関心のあることや挑戦したいことに自由に取り組むことができるコースだと感じています。



【大学院教育学研究科各専攻の紹介】

教職実践専攻

カリキュラム・授業開発コース 2年次 佐々木健真

私は教職大学院で、高度な授業力・カリキュラム開発力・教科指導力を身につけた教員として来年度教壇に立てるように、日々勉学に励んでいます。自身の院生生活を振り返りながら、私が所属するコースの特色や院生生活について紹介します。



カリキュラム・授業開発コースは、それぞれが専門とする教科をはじめ、道徳や総合的な学習の時間などのカリキュラムを開発する力や授業をデザインする力を高めたい人に適したコースであり、これらの力を高めることができる授業科目が豊富に用意されています。

私が特に印象に残っている授業は、1年次で受講した「秋田の授業力の継承と発展」です。前半では、秋田の探究型授業について授業DVD視聴や協議を通して学んだり、教育専門監等による授業を体験したりすることができます。後半では、教科ごとのグループに分かれて模擬授業の実践や授業検討会を行います。現職教員院生の方々とは何度も検討を重ねながら授業を作り上げていった時間は、非常に学びが多い貴重な時間であったと感じています。また、教科指導力も高めたいと思った私は、カリキュラム・授業開発コース科目である「教科教育実践の理論と展開」と「秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価」という2つの授業を受講しました。指導案作成や教材研究、模擬授業等を通して自身の専門教科である理科にじっくりと向き合い、理解を深めることができました。

授業時間外の院生生活の中心となる院生室では、各コースの学部卒院生と現職教員院生が同じ空間で過ごし、何気無い雑談を楽しんだり、授業後の時間には直前の授業内容について話し合ったりすることが多いです。学校現場で日常的に行われる教職員どうしの世代の違いを超えた交流のためのコミュニケーション力を身に付けることができる場であると感じています。

私は来年度、公立中学校で教壇に立ちます。教職大学院でのこれまでの学びを振り返り、大学院生として秋田大学で学ぶことができる残り僅かな時間を大切に過ごしたいです。



発達教育・特別支援教育コース 2年次 平塚達也

教職大学院に入学してから、あっという間に2年が経過しようとしており、とても驚いています。一瞬で月日が流れているように感じるのは、それほど日々の学びが充実していたからだと思います。今回は、そんな教職大学院の魅力と、私が所属する発達教育・特別支援教育コースの魅力を1点ずつ紹介したいと思います。



教職大学院の魅力に関しては、現職教員院生と共に学ぶことができる点です。教職大学院には、私のように学部を卒業してすぐの学部卒院生と、一定の教職経験を有する現職教員院生がいます。長年教育現場で活躍してきた先生方と共に学び、教師としての考え方や振る舞いを吸収できたことは、とても貴重な学びとなりました。また、教職大学院には学部卒院生と現職教員院生が共に過ごす院生室があり、そこでは休み時間のように気軽に意見交換や質問することもできます。そこで私は、不安に思っていた保護者対応に関して質問し、現職教員院生の先生方から貴重なアドバイスをいただけたのがとても参考になりました。

本コースの魅力に関しては、学会に参加して学びを深めることができる点です。この文章を読んでいる方の中には、「学会」と聞いただけで身構えてしまう方もいるのではないのでしょうか？かくいう私も、入学当初はその1人でした。その考えが一変したのが、昨年の特種教育学会での出来事でした。発表前までは「私の研究なんて誰にも見てもらえないのでは…」と不安に思っていました。ですが、発表時間になると自分が予想していた以上に多くの方が来てくれました。「自分の研究が誰かの目に留まった」と思い、自信がついたと共に、非常に嬉しくなりました。また、来てくれた方々と意見交換をする中で考えが深まり、今後の研究にさらなる意欲が湧きました。これらのように、学会に参加する中で、大学外の方々と関わり、新たな学びの刺激を得られたことが、私の教職大学院生活の中で1番大きな経験になりました。

教職大学院での時間は残り少ないですが、最後の最後まで学び続ける姿勢を忘れずに、励んでいきたいです。



心理教育実践専攻

心理教育実践コース修士1年 山口侑哉

大学院に入学して早いもので1年がたちました。今回せっかくこのような機会をいただいたので、この先、秋田大学院の心理教育実践コースに入りたい、入ろうか悩んでいる方の役に立つようなこととお話ししたいと思います。

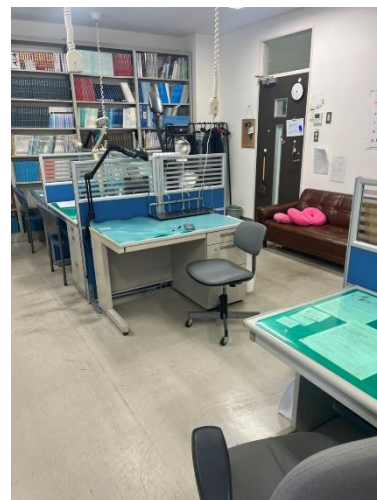
まず、皆さんが気になっている1つとして学部の時と大学院との違いだと思います。私自身も正直学部の時の授業より少し専門的になるのかぐらいに思っていました。しかし、そんなことはありませんでした。学部生の授業は比較的大人数で教授の話を聞いていればいい受け身の授業が多かったですが大学院の授業はほとんどが学生主体です。具体的には、心理学の論文をまとめて発表したり、心理テストを実際に学生同士でとってみて所見を書いて発表したり、自分のしている面接様子を動画でとって話し合いをしたりします。正直1つ1つの授業の内容が濃く毎週毎週課題に追われる日々でした。けれどもそれと同時に心理学の、より深い知識と経験を得ることができ本当に良い経験ができたと思います。なので、まだ働きたくないから大学院に進学したいと考えている方（そんな人はいないと思いますが）なかなかモチベーションの面に関して厳しいものがあると思いますが、本当に心理学を学びたい心理専門職として将来活躍したいと考えている方にはとても魅力的な場所です。

また、大学内での授業だけでなく相談室や外部での実習も充実しています。本や論文、授業などで理論として学んでいたことを、いざ実習の場で応用しようとするのはかなり難しいことでした。うつ病という言葉とその症状を知っていても、それだけでは何の役にも立たないことをひしひしと実感しました。実習中は「実習先の先生方が、どのように理論と実践を結びつけているのか」、また、「自分が先生の立場であったらどうするか」を特に意識して取り組むようにしています。実際のクライアントさんとお会いする中で気づいたのは、症状としてはうつ病と同じ診断をされた方だけ、その背景にあるものは誰一人として同じものがなく、それが臨床心理の面白いとこだなと感じました。聞いて学ぶより実際にみて体験するほうが好きな私は、多少つらいですがこれらをとっても楽しくやらせてもらっています。

次に、もしかしたらこれが一番気になってる人もいるかもしれませんが授業以外のことに関して少し触れようと思います。まず、大学院は教授

との距離がとても近くなります。なので、コロナ前はよく研究室でご飯を食べに行ったり、遊びに行くことが多くあったそうです。またTAといて、教授のサポートとして学部生の授業を行います。授業によっても異なりますが実際に大学院生が授業を行うこともあります。バイト代も出るし、自分の知識も増える素晴らしいものになっています。

最後に、正直に言うと心理教育実践専攻で2年間を過ごすことはとてもハードだと思います。しかし、サボろうと思ったり、何もしようとしなければなくてもいいのも事実です。なので、そういったような覚悟も必要だと私は思います。けれども大学院には同じ志をもった仲間も沢山いるので怖がらずぜひ私たちと一緒に心理学を学んでほしいと思います。まとめると、大学院での生活は、学部生の頃と比べて課題や実習、学部生の講義のTAなどやらなければならないことが多く、時間管理が大変である一方で、大学院でしか得られない貴重な経験を日々積むことができています。関心のある方は、進路決定の選択肢の一つとして、大学院への進学を検討してみてはいかがでしょうか。



【研究紹介】

シェーンベルクの声楽作品の演奏解釈

教育実践コース（音楽）担当 川辺 茜

これまで私は、作曲家アルノルト・シェーンベルク（1874-1951）とその周辺の声楽作品の演奏・研究を行ってきました。彼らは、「無調」や「12音技法」を用いた作曲家として知られています。後期ロマン派音楽の流れからスタートしながらも、新たな地平を見出すべく「旋律」や「和声」といった既存の音楽秩序から離れ、新たな音楽秩序を見出そうとした作曲家です。彼の常識を覆すような音楽が登場したことは、現代に至るまでの、例えばアメリカの実験音楽をはじめとして、図形音楽、コンピューターを用いた音楽等々の新しい音楽のムーヴメントや、多様な音楽表現が生み出される起点となったとも言えます。

しかしこういった多様な音楽の出現によって、演奏者にも、聴取の側にもある種の難しさが生まれることになったと思われます。例えば、演奏者でいうところの、「譜読みが困難」、「今まで培った技術では演奏できない特殊な技法がある」等、聴取の側にすれば、「とりとめがない」「どこが音楽の盛り上がりか、終わりか、聴きどころがわからない」等は顕著な例ではないでしょうか。私は演奏者である立場を活かして、音楽学的な面と実践的な面を繋ぐような研究を心がけています。それによって、困難が少しでも解消され「わからないもの」が「おもしろいもの」になるのではないかと思います。

【譜例】

The image shows a musical score for voice and piano. It consists of two systems of staves. The first system has four vocal staves (Soprano, Alto, Tenor, Bass) and a piano accompaniment staff. The second system also has four vocal staves and a piano accompaniment staff. The lyrics are in German. Above the notes, there are numerical annotations: 1 2 3, 4 5 6 7 8, 9 10, 11 12, 12 11, 10 9 8 in the first system; 7 6 5 4, 3 in the second system. The lyrics are: 'To - nal o - der a - to - nal? Nun sagt ein - mal in wel - chem Stall in die - sem Fall die größ - re - Zahl, daß man sich hal - - - - -'.

研究の一例として、譜例に示したのはシェーンベルク作曲の合唱作品《三つの風刺》作品28の第1曲〈分かれ道で〉冒頭です。この作品は、一般的な和声的な曲に比較すれば、認知しづらい旋律と言え、絶対音保持者でなければ初見で歌うことは難しいでしょう。しかし以下のようにアナリーゼを行い、この旋律の構造を明確化することで、演奏者にとっても理解の助けとなり、演奏表現に活かすことができます。

4声のカノンであるこの曲は、ソプラノが一番初めに C-E-G-Cis-A-H-F-Dis-D-Fis-Gis-Ais と基本音列を提示します。ド～シまでの音が使用されていて、この音の順序を仮に1-2-3-4-5-6-7-8-9-10-11-12とナンバリングすると、ソプラノの第3小節の2拍目からは12-11-10-9-8-7-6-5-4-3-2-1と逆行の音列であることが分かります。またこの作品の歌詞はシェーンベルク自身によるものですが、歌いだしの「Tonal oder atonal? 調性が無調性か?」に対して、「調性か」の部分に「ドミーソ」の極めて認知されやすい音が付され、「無調性か?」の部分には耳慣れない音列が付されることで、この歌詞の内容を音そのものでも強化していると解釈できます。

このように楽譜や音楽と向き合い研究として言語化することと、音楽表現として演奏につなげることが私の研究の軸となっています。今後は、より多様な演奏表現を求められる作品の演奏解釈、歌唱法、また教育機関における指導法について研究していきたいと考えています。

【研究紹介】

学びと市民社会の関係性 ～台湾のコミュニティ・カレッジを例に～

こども発達コース担当 山口 香苗

私がこれまで主に研究してきた台湾のコミュニティ・カレッジの台湾社会における位置づけ、そしてそれが日本に与える示唆についてご紹介いたします。

台湾のコミュニティ・カレッジは「社区大学」と呼ばれます。「社区」とは、communityの中国語訳、そして「大学」との漢字を使っていますが、社区大学はいわゆる大学ではなく（大学として設置しようとした名残）、成人を対象にした生涯学習施設です。1998年に台北市で初めて作られ、現在、台湾全土に89か所存在します。小・中・高校の内部に置かれ、現在は学校と連携した学習活動も展開しています。

台湾では、1987年の戒厳令解除後、自由と民主の空気の中で、1990年代にさまざまな社会運動が行われました。社区大学は、この時期の運動の主翼を担った「四一〇教育改革運動（1994年4月10日に決起）」を主導した大学教授ら教育改革者たちによって構想されました。彼らは、長い戒厳令下で閉鎖的になった社会に活気を生み出すべく、硬直化した教育の改革を政府に要求し、そこで社区大学の設置を提唱しました。

社区大学の設置理念は、「知識解放と市民社会の実現」で、学校教育で教えられる極端に抽象化された知識を「解放」し、その知識を上層階級だけでなく一般市民にも開放することで市民の社会参加をうながし、民主的な社会、すなわち市民社会を実現するというものです。そのため、社区大学では、市民が学術知識を学び、それを基礎に政治参加も含む社会実践をしていくことが理想とされました。しかし、市民からは趣味教養学習の需要が高く、実際に作られた社区大学はカルチャーセンターのようになり、理念と現実には乖離があると問題視されてきました。

私は、社区大学でのフィールドワークから、むしろ社区大学は趣味教養学習中心の学習機関になっているからこそ、台湾の民主的な社会基盤を作ることになっていると考えました。なぜなら、そこで学んでいる人々は、とても楽しそうに学び、良好な人間関係を築き、日常のストレスを解消していくことで、社会への信頼を高め、地域や公共への意識をも強めていたからです。学術知識や政治参加をベースとするのではない、生活の豊穡性を基礎にした人々の生活実感とは切り離せない豊かで自由な社会基盤を作るものとして、社区大学は台湾社会に位置づいていました。

日本の公民館なども、地域課題解決など「公共」のための学びを重視しますが、人が学ぶのは地域課題解決のためというわけではありません。「自由で楽しい」の徹底によって、そしてそれを迂回路に、市民社会の基盤が作られることが示唆されました。



↑台初の文山社区大学（2016年撮影）

【書籍紹介】

コロナ禍と人文学

『ペストの古今東西～感染の恐怖、終息への祈り～』

(秋田文化出版、2022年9月30日)の刊行

国際文化講座 佐藤猛・佐々木千佳・内田昌功・羽田朝子

佐々木和貴名誉教授

新型コロナウイルスが日本に上陸してから、三年の月日が過ぎようとしている。私たちは今も感染者数の増減や行動制限の措置を気にし、何より流行の終息を願っている。その中で、歴史や文学といった人文系の学問には何ができるのか。

本書は、本学部の人文系教員5名がヨーロッパと中国の歴史、文学、美術の視点からペスト禍について論じたものである。構成は以下の通り。

はじめに コロナ禍から古今東西のペストへ

第1章 百年戦争下のパリと死に至る病

第2章 ヴェネツィア美術にみるペストの表象と救済

第3章 ペスト禍のシェイクスピア

第4章 ペスト菌に抗した中国

第5章 満洲国の中国人作家がみたペスト禍

おわりに 未来への架橋としての記録と記憶

「コロナ」はウイルスが体内に入ることにより起こされるのに対して、「ペスト」はこれよりも大きい細菌によって起こされる。感染すると菌の毒性の強さから、首や脚の付け根において菌の除去を行うリンパ節が腫れ上がる。菌が血液中に入り全身をめぐる、過剰な免疫反応が起こり、体中に赤や黒の斑点が出る。菌が肺に達すればほぼ死に至る。それは「黒死病」とも呼ばれる。

とはいえ、この流行病の正体が微生物であり、さらにその菌が顕微鏡で特定されたのは19世紀の末である。ちょうど日清戦争が行われた頃だ。これ以前には、現在私たちが日々行っている手洗い、うがい、マスク着用といった基本的な感染対策すら想像できなかった。

第1章から第3章は、このような時代の西欧を取り上げた。14世紀のユーラシア大陸におけるペスト・パンデミックの中で、パリの修道士はこれを「死に至る病」と記した。14～17世紀のヴェネツィアでは、疫病の終息祈願として聖堂や絵画が制作され、それらは今も「水の都」の街並みを形作っている。劇作家シェイクスピアの名作は三密状態の劇場で上演され、芝居の随所に疫病の影が見え隠れしている。これらの時代の西欧では、疫病の原因は大気の腐敗であると考えられていた。1665年ロンドンにおけるペスト大流行の際、かのニュートンも腐敗した大気を嫌い、生家に帰省している。

第4章と第5章は中国を扱う。生活習慣や食生活、地形などからヨーロッパとは流行の規模こそ違え、漢民族と北方民族が衝突・交流した華北地方では、宋の時代や明末にペストと考えられる疫病が流行した。帝国主義時代の1894年、英国領だった香港で流行したペスト菌は列強諸国に向う船舶に乗ってパンデミックを引き起こし、日本にも上陸した。20世紀中葉の満洲事変後、日本統治下におかれた中国東北部では、日本人の衛生観念に基づく感染対策が実施された。しかし、それは中国人差別を助長し、文学作品のテーマともなった。

本書はこうして古今東西のペストの経験や文学作品への影響、終息祈願や原因究明の多様なあり方、感染拡大の背景などを論じた。むろん、これらは人類の歴史の一部にすぎず、これを学びさえすればコロナ禍を乗り越えられるわけではない。

しかし、コロナの世界的流行以来、人類が経験してきた感染症に関心が注がれている。ペストの他にも、西洋近代のコレラ、日本の文豪を苦しめた結核、第一次世界大戦時のスペイン風邪。感染症と対峙した人々の経験には眼前のコロナ禍を生き抜くヒントが潜んでおり、今こそ、その知見が求められている。このことは、本書の成立に秋田魁新報社と秋田文化出版株式会社という地域の民間企業二社が関わっていることにも示されている。

本書の刊行後、執筆者らは令和4年度秋田大学公開講座として、「ペストの古今東西 歴史・文学・美術」(10/20-12/1全6回)を担当した。オンライン開催で、受講申込者は海外在住者を含めて103名に達した。これは全学1位の申込者数である。

改めて、人文系の学問に何ができるのか。執筆者一同はコロナ第7波の中で公開講座を終えた今、次のような思いをめぐらせている。

受講を申し込まれた方々は、Zoom越しとはいえ、コロナ禍を生きるヒントを探しにきたのではないだろうか。そして、人文学はいかなる難局であれ、そのヒントにたどり着くための人々の経験と営為を明るみに出す可能性を秘めている、と。



学部・研究科の活動（2022年11月～12月）

【全学】

11/19：総合型選抜Ⅰ

【学部】

11/22：第2回地域連携セミナー

12/7：「先輩と語る会」（企業編）

12/8：「先輩と語る会」（公務員編）

【教育学研究科】

11/12：教職大学院活用研修（学校危機管理）

11/24：教職実践専攻6年一貫プログラム説明会

11/26：教職大学院活用研修（学校学級経営）

12/3：第2回スクールリーダー研修会

12/10・11：日本教職大学院協会研究大会（福井大学：オンライン開催）

12/17：大学院第Ⅱ期入試

【附属学校園】

11/11：附属中学校秋季公開研究協議会

11/29：附属小学校オープン研修会

冬来たりなば春遠からじ



雪は雑多なものを隠し、水墨画の世界に誘います



陽がなくとも、雪の世界は意外と明るい



冬には冬の風情があります

発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音（かねのね）」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧下さい。